

エルサレムに帰る主

ゼカリヤ書1章

万軍の主はこう仰せられると、彼らに告げよ。万軍の主は仰せられる、わたしに帰れ、そうすれば、わたしもあなたがたに帰ろうと、万軍の主は仰せられる。(3)

預言者ゼカリヤはバビロンからエルサレムに帰還した民の一人で、エズラ記にはハガイと共に神殿再建を指導していたゼルバベルとヨシヤを励ました様子が記されています。この預言書は、神殿再建が続いているときに主から与えられた言葉を書き記したものです。

主はまず「わたしに帰れ、そうすれば、わたしもあなたがたに帰ろう」と民に語られました。「帰る」という言葉はエレミヤ書などに繰り返し出て来たように、悔い改めを意味する言葉です。バビロンからエルサレムに帰ってきた民に、「わたしに帰れ」と命じられるのです。神の民にとつて最も大切なのは、主のもとに帰ることでした。そのとき、主ご自身も彼らのところに帰ってきてくださるということです。エゼキエル書を読むと、主は一度はエルサレムの宮から離れてしまわれましたが、やがてもう一度帰ってきてくださると預言されています。神殿を再建するにあたって重要なのは、彼らの中に主なる神が帰ってきてくださることでした。神がその中におられないなら、神殿の再建は完成しないからです。再建が進められていく中で、彼らの信仰の再建を主は願っておられたのです。

主は同じように、わたしたちと愛と命の関係を築きたいと願っておられます。それゆえわたしたちも、主の招きを受けて、繰り返し主のもとに帰ろうではありませんか。